

# 桑野塾

桑野塾

検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。どなたでもご参加いただけます。それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

## 第49回

2018年  
6月16日(土)  
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 戸山キャンパス 33号館 231号室

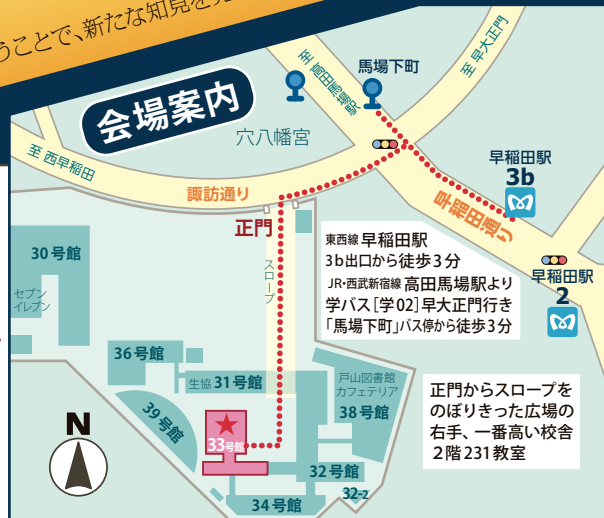
★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。

**参加無料**

☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



## エイゼンシュテイン 生誕120年!

### エイゼンシュテインと「対角線の科学」

報告者: 井上 徹

おまけ・『戦艦ポチョムキン』のにぎやかな航海

ソ連の映画監督エイゼンシュテインは、今年生誕120年没後70年の節目を迎えています。モンタージュ論をはじめとする理論的著作にも、新たな光が当てられ、改めてその真価が問われています。エイゼンシュテインの著作は、一般的な理論書とは違った独特のスタイルで綴られています。その意味をロジェ・カイヨワの「対角線の科学」という概念を手がかりに考えてみたいと思います。

おまけで、無声映画の『戦艦ポチョムキン』には、いくつかの音楽がつけられてきましたが、その聞き比べをしてみたいと思います。

●井上 徹(いのうえ とおる)

1965年東京生まれ。エイゼンシュテイン・シネクラブ代表。映画史・ユーラシア文化研究者。「ロシア・アニメ映画祭2000」「ロシア・ソビエト映画祭」など、さまざまな上映の企画・運営にたずさわる。今年も国立映画アーカイブでの「ロシア・ソビエト映画祭」(7月10日~8月5日)に企画協力。ロシア・ソビエト映画についての執筆も続けている。著書に「ロシア・アニメ」(東洋書店)。共訳書に「エイゼンシュテイン全集」第9巻(キネマ旬報社)ほか。

### 剥離するイメージ

#### — エイゼンシュテインのモンタージュ理論を再考する

報告者: 畠山 宗明

エイゼンシュテインのテキストは、時代によって様々に解釈されてきた。しかしエイゼンシュテインの認識の根底には、全てを身体感覚として考察するという前提がある。

そうした前提に立ったときわかるのは、エイゼンシュテインにとってモンタージュとは、弁証法的な「発展」というよりも、一つの視野の中での知覚的「重なり合い」を意味していたということである。

この発表ではエイゼンシュテインの様々なコンセプトをこのような知覚論的なアプローチから読み直してみたい。

●畠山 宗明(はたけやま むねあき)

1974年生。聖学院大学人文学部助手。映画研究、表象文化論、エイゼンシュテイン研究。「レイヤー化するイメージ」(『デジタルの際』共著、聖学院大学出版会、2015年)。「エイゼンシュテイン—運動とイメージ、そしてアニメーション」(『ゲンロン7』東浩紀編、株式会社ゲンロン、2017年)など。

メキシコでの  
エイゼンシュテイン



20代のエイゼンシュテイン



「戦艦ポチョムキン」より



「メキシコ万歳」より

